

2020 年通期決算説明会における主な質疑応答

(2021 年 2 月 3 日 (水)、電話会議)

Q 1. 2021 年度の設備投資見込額 600 億円の内訳を教えてください。

A 1. 約 300 億円は中国廈門でのディスプレイ事業の投資です。ディスプレイ事業では国内での投資や修繕等を見込んでいます。このほか、ガラス繊維事業や医薬用管ガラス事業においても見込んでいるものがあり、それらを積み上げると 600 億円程度になります。

Q 2. 中長期的にも 600 億円程度の設備投資が続くとのことだが、その中身とフリー・キャッシュフローの水準について教えてください。

A 2. ディ스플레이事業では G10 サイズ、ガラス繊維事業では風車ブレード向けの対応が出てくるものと見込んでいます。フリー・キャッシュフローは投資額が大きくなる年にはマイナスになることも予想されますが中長期的にはプラスになるようにしていきたいと思えます。

Q 3. ディ스플레이事業では中国で G10 対応設備への投資を行うのか。

A 3. 中国廈門では G10 対応設備を導入する予定です。このほか加工設備等でも G10 対応の投資が出てくると思えます。

Q 4. 中国廈門で生産能力を増強した分はどこに販売していく見込みか。

A 4. 計画当初は、競争力の低い日本拠点の生産能力を縮小し、中国廈門で増強するという考えでしたが、現在は技術が向上し競争力がついたため、日本の生産能力を落とさず、中国廈門で G10 サイズ中心の生産を展開していくことを考えています。

Q 5. 滋賀高月事業場の停電に関して、2021 年度に見込んでいる特別損失約 65 億円の中身を教えてください。

A 5. 3 分の 2 が修繕費関係で、残りが生産停止中に発生する設備維持等の稼働費です。

Q 6. 滋賀高月事業場の停電に関して、設備が復旧したときに販売シェアを戻すことができるのか。

A 6. 停電によって一時的に得意先にご迷惑をお掛けすることになりますが、4 月以降は販売への影響も解消する見込みです。

Q 7. 2020 年度と 2021 年度の営業利益の増減分析をお願いしたい。

A 7. ディ스플레이事業については変化は少ないですが、ガラス繊維事業では稼働率が高くなり利益を増やせると見込んでいます。医薬用管ガラス事業等でも利益が積めると見込んでいます。

Q 8. ガラス繊維事業はどの分野を優先し稼働を戻していくのか。

A 8. 自動車部品向けは回復スピードが速くて半年ぐらいはモノが足りない状況が続くと思えます。住設向けや風車ブレード向けもタイトな状況です。風車ブレードは炭素繊維とガラスファイバの双方が使用されるものが増えていくと考えています。ガラスファイバは弾性率が高いものが求められていますので、高弾性のガラスファイバをしっかり販売していくことが重要になります。現在、コロナウイルス感染症の影響で工事が計画通りに

進められないこともありますので、ガラスファイバの生産がフル稼働になるのは下期以降になると思います。

Q 9. ガラス繊維事業の損益状況を教えてください。

A 9. 日本、マレーシアは利益を上げていますが、欧米拠点が苦しんでいます。欧米拠点の赤字は 2020 年の 1 年間でかなり改善してきました。

Q 10. 原燃料費の変化はどうか。

A 10. 単価ベースでは 2021 年度は下がると見ていますが、輸送コストは高騰しています。

Q 11. 次の中期経営計画では売上、利益の規模はどのように考えているか。

A 11. 売上高は 3,000 億円超を、営業利益率は 10%以上は目指したいと考えています。

Q 12. 営業利益率 10%を目指すための鍵となるものは何か。

A 12. 重要なのは生産性の改善です。製造プロセスの改良により生産性だけでなくエネルギーの削減も可能になります。また、AI 技術等を使って省人化も進めていきます。一朝一夕には改善しないので 2、3 年かけて健全な利益レベルに戻していきたいと考えています。

Q 13. 政策保有株の削減は進めていく計画か。

A 13. 政策保有株については段階的に減らしていく方針で、2020 年度もいくつか銘柄を減らしています。2021 年度も減らしていきたいと考えています。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。